

## 官民一体で軌道に乗せた「スポーツ振興くじtoto事業」



# 独立行政法人 日本スポーツ振興センター様とともに

身近なスポーツ環境の整備と競技スポーツの発展など、日本のスポーツを豊かにするため、独立行政法人日本スポーツ振興センター（NAASH）様が2001年に開始した「スポーツ振興くじtoto事業」。日本ユニシスは2006年以降の第2期における事業パートナーとして、経営管理業務の支援および情報システムの開発・運用を通じ、商品・サービスの充実や効率的な事業運営を支援しています。

平成22年度は過去最高となる95億円を超える額の助成を配分することが決定するなど大きな成果をあげているtoto事業。日本ユニシス 流通第二事業部の横川愛は、営業職として、その最前線に立っています。

日本ユニシスグループの「ICTが人と社会にできること」を形成するのは、グループ企業の連携から生まれる「チーム」力であり、その基盤を成す社員一人ひとりの「人」のエネルギーです。このコーナーでは、日本ユニシスグループ各社の社員の“声”を、リレー形式で掲載しました。

CSR  
リレー  
トーク

社員に聞きました——  
・あなたにとってのCSRとは？  
・仕事を通じて働きがいを感じる時  
・職場において大切にしていること

U&U  
Users & Unisys

流通第二事業部  
ビジネス開発部

横川 愛

### お客さまとユニシスの間に立つ “橋渡し役”として

私がスポーツ振興くじ事業の担当になったのは2006年。日本ユニシスが日本スポーツ振興センター様の新しいビジネスパートナーとして参画し、第2期スポーツ振興くじ事業が本格的に稼働し始めた頃です。新しい体制によるインフラ整備の初期段階を終え、新商品の開発やシステムの機能増強、販売チャネルの拡大を図っていました。

そうしたなか、私は情報システムの保守・運用と、新商品・販売チャネル追加・決済機能追加対応等の追加開発に関わる、さまざまな調整業務を行っています。

私の仕事の中心は、お客さまと日本ユニシスグループのシステム開発・運用などの関係部署との間に立つ、いわゆる“橋渡し役”です。関係する部署や人数が多い分、さまざまな意見があり、日々の調整が大変です。それぞれの立場での言い分やエキスパートとしてのこだわりがあって、話がまとまらないことも少なくありません。

それらを解決するために、お客さまのビジネスプランをきちんと理解し、その思いをしっかり受け止めながら、具体的な問題や心配をひとつずつクリアし、双方が納得できる方向を探っていくことを心がけています。コミュニケーションを密にし、こちらの都合だけを言わないこと。一方からの要望をもう一方にただ伝えるのではなく、「どうすれば実現できるのか」を一緒に考え、十分に話し合うこと。良好な人間関係を築くには、相手の話をきちんと聞いたうえで、目的を共有化させていくことが大切だと考えています。

### toto事業を通じて実感する、 “社会とのつながり”

この仕事は、自分が関わってつくり上げた仕組みが直接一般のエンドユーザーの方々に使われると同時に、収益金がスポーツ振興に役立てられるので、“自分と社会とのつながり”を強く感じます。現在、地域スポーツ施設整備助成の一環として、グラウンドの芝生化が進められていますが、子どもたちが芝生でサッカーを楽しんでいる姿を見かけると嬉しいですね。自分の仕事がダイレクトに世の中の中の役に立っていることを実感します。

一方、シーズン開幕の際は、システムがきちんと稼働するかどうか、非常に緊張します。お客さまの業務を直接支えている仕組みなので、いまだにドキドキしますね。

今後は、専門的な知識とお客さまに伝える力の両方を高めながら、営業スキルをアップさせていくことがテーマです。そのために、どこに課題や改善ポイントがあるのか、自分がこう動けば、周りの人がどういう問題意識を持つかなど、物事を全体から俯瞰できる広い視野と判断力を磨いていきたいと考えています。

ビジネスの根底にあるのは人と人との関係です。多くの人に信頼されることがその第一歩であり、最終的な目標でもあります。その「信頼」をキーワードに切磋琢磨し、相互に価値を認め合える関係をつくっていくことをめざしています。スポーツ振興くじ事業を通じ、素晴らしいお客さまや先輩・同僚に恵まれ、多くのことを学んできましたが、今後もこの事業とともに、さらなる成長をめざしていきたいと思っています。



日本ユニシスグループの技術に関する戦略を立案し、実行しています。技術に根ざした新しい価値を創造することで、お客さま、社会に貢献していくことをめざしています。  
日本ユニシス(株) 田尻 純子

VOICE



日本スポーツ振興センター システム開発担当者様から  
スポーツ振興を支えるシステムの安定稼働

独立行政法人 日本スポーツ振興センター  
スポーツ振興事業部 事業企画課  
課長補佐  
西村 和彦 様

私がスポーツ振興くじ事業に携わるようになったのは2005年6月から。同事業が「委託方式」から「直営・直轄方式」へと大きく舵を切るときでした。

そのときのシステム構築では、2005年12月のサッカー天皇杯を対象としたくじの、新システムでのテスト販売に向けた開発と、翌年2月の第2期事業全面販売のための新システム開発の両方を並行して行わなければならない、時間的な余裕はまったくありません

でした。もはや「官」も「民」もなく、相互に徹底した連携体制を敷くことが必要であり、日本ユニシス様とはまさに“一枚岩”になって開発を進めていきました。常にビジネスとともにシステムも成長していく、そのスタートを迎えたのです。

それから約5年。くじの売上も回復してきており、本来の事業の目的であるスポーツ振興のための財源の確保もできるようになってきましたが、それを支えているものとしてシステムの安定稼働があると感じています。今後も、トラブルなく、安全かつ順調にシステムを稼働させることが私たちのテーマです。そのためには、日本ユニシス様との信頼関係を継続していくとともに、同じ感覚や考え方を引き続き共有していくことが大切だと思っています。

VOICE



日本スポーツ振興センター 助成担当者様から  
助成の「成果」を継続させることが重要です

独立行政法人 日本スポーツ振興センター  
スポーツ振興事業部 助成課  
審査第三係 係長  
木場 一貴 様

スポーツ振興くじ助成は、totoの販売により得られる収益をもとに、地方公共団体およびスポーツ団体のスポーツ振興事業に対して行われています。私は主に、グラウンドの芝生化やスポーツ施設の整備など、地域スポーツ振興の助成業務を担当しています。

地域スポーツは、スポーツ競技全体の裾野に位置づけられます。裾野が広がれば競技全体のレベルが

上がり、頂上も高くなります。また、その振興は、子どもたちがスポーツに触れる機会を提供するほか、高齢者の方々にとっての“交流の場”を提供する役割も担っています。私も業務の関係上、地方のスポーツ施設を訪れましたが、高齢者の方々が想像以上に多く参加され、体操教室などでイキイキと運動されていました。高齢社会への対応という意味でも、地域のスポーツ振興はこれからますます重要性を増していくと考えています。

そのためにも、助成活動そのものの継続性はもちろん、助成を通じて実現された地域スポーツイベントや施設利用といった「成果」が、その後も長く続いていくようにすることが重要であると思っています。

VOICE



長野県小諸市教育委員会 / 小諸市立水明小学校のみなさま (日本スポーツ振興センター(右から板橋様・佐藤様)とともに)

「スポーツ振興くじ助成」一助成先のみなさまにお話を伺いました  
子どもたちの「笑顔」が増えたことが一番の喜びです

長野県小諸市立水明小学校 グラウンド芝生化事業



スポーツ振興くじ助成により芝生化したグラウンド

小諸市教育委員会では、小学校児童の体力・運動機能向上などのメリットが期待されるグラウンドの芝生化を推進しており、2009年、水明小学校をモデル校として校庭の芝生化を実施しました(芝生化に要する工事費等の事業費のうち、80%はスポーツ振興くじからの助成金を充当)。

グラウンド芝生化の背景としては、児童のけがの危険性を減らしたいという思いや、地球温暖化対策の教材として役立てたいとの考えがありました。芝生化作業が完了し、実際に利用してきた感想としては、子どもたちが校庭で遊ぶ機会が目に見えて増えたことが一番の成果だったと考えています。また、土の

グラウンドでは転ぶと痛いので運動をセーブしていた子どもたちが、芝生の上では思い切り遊ぶことができるようになり、笑顔が増えたことを嬉しく思います。

芝生のポット苗植え付けの際には地域住民の方々約300名にボランティアとして参加いただき、“みんなのグラウンド”という意識が高まったように感じます。今後の芝刈りや施肥作業でも同様に、ボランティアのみなさまに参加していただくことで、このグラウンドを地域交流の場としていきたいと思っています。

来年以降は、今回のモデル事業で得た成果を、市内の他の小学校にも広げていきたいと考えています。

スポーツ振興くじtotoの収益は、  
日本のスポーツを育てるために使われています

これまで累計で約258億円が助成されました。グラウンドの芝生化をはじめ、日本のスポーツを育てるために役立てられています。



総合型地域スポーツクラブ活動助成 (NPO法人しんじ湖スポーツクラブ)



独立行政法人  
日本スポーツ振興センター様 概要



本部所在地:  
東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号  
設立:  
2003年10月(特殊法人等整理合理化計画に基づき、日本体育・学校健康センターから移行)  
資本金:  
2,265億52百万円(2010年4月1日現在)  
従業員数: 350名(2010年4月1日現在)  
事業内容:  
国立競技場の運営およびスポーツの普及・振興に関する業務、国際競技力向上のための研究・支援業務、スポーツ振興のための助成業務、スポーツ振興投票業務、災害共済給付業務および学校安全支援業務



データセンターに常駐し、ハードウェアの導入・保守を担当しています。仕事を通じて社会に「笑顔」を提供していけるよう、まず自分から楽しみ、笑顔を発信することを心がけています。  
ユニアデックス(株) 滝沢 圭太



お客さまのビジネスにおける可能性の広がり貢献していくために。高いモチベーションを持って、新しい技術や知識の習得に努めていきます。  
エス・アンド・アイ(株) 福嶋 二葉